



4月19日（日曜日）無投票当選が確定し
インタビューを受ける栗市長

ごあいさつ

平成27年5月7日

風薫る新緑の季節となりました。4月の統一地方選挙において無投票当選となり、町長時代から3期目となりますが、市民の皆さんの負託により市政のかじ取りをさせていただくことになりました。

一日だけの選挙戦ということで、公約を訴える機会が十分になかったのではないかと、いう思いと、市民協働のまちづくりをはじめとした総合計画の推進が一定の評価をいただいているのだろう、まちづくりの基本的な方向が市民の皆さんと共有できているのだろうという思いが交錯しております。いずれにしましても無投票当選ということで、大変ありがたく思っており、これから4年間また市民の皆さんのご協力を得ながら野々市市の発展につくしたいと思っております。

直接、市民の皆さんの思いをくみ取るために「市政ふれあいミーティング」を開催していただき出向くことや、お声がかかれば町内会の諸行事などに参加して多くの方からのお話を聞かせていただくといったことを積極的にさせていただいております。

町から市に移行するとき、いろいろな地域で説明をさせていただいた折、「まちで見かけたら、いつでも声をかけてくださいね」とお伝えしたところ、実に多くの方からお声をいただきます。何よりうれしいのは小中学生の皆さんから「市長さん」と気軽に声をかけていただけることです。野々市市の次世代を担うこの子たちのために頑張らねばと、逆に元気をいただきます。しかしながら行政側からの一方的な思いだけでは住みやすいまちづくりはできません。

現在、能登・輪島市が舞台のNHK朝のドラマ「まれ」で市役所に努める主人公まれの「目の前の熱い想いを応援するのが市役所の仕事」というセリフがありました。一瞬どきりとなりました。市民協働のまちづくりの原点はこういうことなのです。今年は国勢調査、地方創生と自治体の真価が問われる、試されることとなります。大きな山を越えるには、まずは原点を大切にしなければなりません。

大変な時期ではございますが、信頼される行政運営を進めていきますので、より一層のご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いたします。